

令和3年5月31日
農推第1280-2号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

今年例年より大幅に早い梅雨入りとなりました。病害の発生には特に注意してください。

発生に注意！（6月）

水稲

ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)

- ・ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落としましょう。
- ・水深4cm以下では自由に移動できないので、田植え後の浅水管理が有効です。
- ・田植え直後にスクミンベイト3、スクミノン、ジャンボたにしくんなどを散布しましょう。スクミノン、ジャンボたにしくん使用後は7日間湛水状態にし、かけ流しや落水はしないようにしましょう。

ぶどう

べと病

- ・露地の多発ほ場では、梅雨の晴れ間の予防が重要です。
- ・発生を認めたらライメイフロアブル、エトフィンフロアブル、レーバフロアブルなどを散布しましょう。
- ・農薬を散布する際は、薬害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行いましょう。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ

- ・幼虫は、幹や枝から中華麺〜うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出します。フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫しましょう。
- ・ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで殺虫しましょう。
- ・発生地域では、モスピラン顆粒水溶剤など成虫対象の登録薬剤を散布しましょう。

野菜類・花き類

ハスモンヨトウ

- ・なす科野菜、さといもなど多くの作物を加害します。
- ・発生を認めたら、アディオオン乳剤（さといも、ずいき、オクラ、豆類（未成熟）など）、ディアナSC（かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど）、コデツフロアブル（ずいき、さといも、オクラ、花き類など）、プレバソフロアブル5（さといも、なす、ピーマン、キャベツなど）などを散布しましょう。



べと病葉裏の病斑



クビアカツヤカミキリ成虫



ハスモンヨトウ幼虫

次回の情報は6月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

病害虫の発生予報(6月)

水稲

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			いもち病		
		縞葉枯病(ヒメビウンカ)			
	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)(発生に注意)				

果樹

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			灰色かび病		
			べと病		
			チャノキイロアザミウマ		
			クワゴマダラヒトリ		
もも				せん孔細菌病	
			シンクイムシ類		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん			黒点病		
			ミカンハダニ		
			カイガラムシ類		
いちじく			アザミウマ類		
果樹類全般		果樹カメムシ類			

野菜

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病		
			灰色かび病		
			うどんこ病		
			アザミウマ類		
トマト			葉かび病・すすかび病		
			灰色かび病		
				コナジラミ類 (トマト黄化葉巻病 (TYLCV))	

野菜類・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜・花き類			シロイチモジヨトウ		
				ハスモンヨトウ	
			コナガ		
			アブラムシ類		

水稲

いもち病



葉いもち

特徴

- ◆低温多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。

防除のポイント

- ◆発生が予想される場合は、ビームプリンス粒剤やブイゲットフェルテラテスL粒剤、ツインターボフェルテラ箱粒剤などの箱施用剤を田植え時に処理する。
- ◆いもち病の常発ほ場で箱施用剤を使用できない場合は、発生前にオリゼメート粒剤、フジワン粒剤、コラトップ粒剤5などを散布する。
- ◆発生を認めたらブラシンフロアブルなどを散布する。

縞葉枯病（ヒメトビウンカ）



ヒメトビウンカ※

縞葉枯病発病株

特徴

- ◆縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。
- ◆り病株では、新葉が垂れ下がって枯死する（ゆうれい症状）。

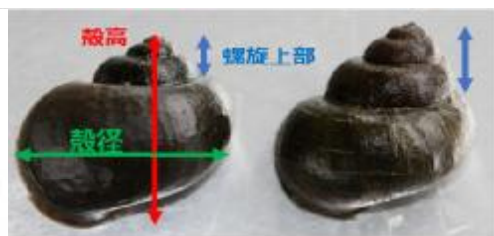
防除のポイント

- ◆ヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。
- ◆箱施用剤等により、ヒメトビウンカの防除を徹底する。

ジャンボタニシ（スクミリングガイ）



ジャンボタニシ
(スクミリングガイ)



ジャンボタニシ

マルタニシ



ヒメタニシ

注)当該項目「ジャンボタニシ（スクミリングガイ）」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために」より引用。

特徴

- ◆成員の殻高は2～7cm程度。
- ◆他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。
- ◆主に田植え直後（約20日後まで）の苗が食害され、欠株になる。

防除のポイント

- ◆ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とす。
- ◆水深4cm以下では自由に移動できないので、田植え後の浅水管理が有効。
- ◆田植え直後にスクミンペイト3、スクミノ、ジャンボたにしくんなどを散布する。
注)スクミノ、ジャンボたにしくん使用後は7日間湛水状態にし、かけ流しや落水はしない。



卵塊

カラー技術資料「ジャンボタニシ（スクミリングガイ）から稲を守りましょう！」についてもご参照ください。

<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/color/taniishi/taniishi2017.pdf>

果樹

ぶどう(加温栽培)

灰色かび病



被害果*

特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆胞子（分生胞子）が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

- ◆適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆発生を認めたら、フルーツセイバー、オンリーワンフロアブル、ピクシオDFなどを散布する。

べと病



べと病の葉裏の症状

特徴

- ◆梅雨時期など、雨が続くとまん延しやすい。

防除のポイント

- ◆露地の多発ほ場では梅雨の晴れ間の予防が重要である。
- ◆発生を認めたらライメイフロアブル、エトフィンフロアブル、レーバスフロアブルなどを散布する。
- ◆農薬を散布する際は、薬害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。

令和3年5月21日発出の防除情報「ぶどう（特に露地栽培）べと病に注意！」についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyojyouhou/R0305beto.pdf>

チャノキイロアザミウマ



被害果*

特徴

- ◆巨峰、シャインマスカット等の大粒系品種で被害が大きいので注意する。

防除のポイント

- ◆コルト顆粒水和剤、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤、モスピラン顆粒水溶剤などを散布する。

注）幼果期以降に使用する場合は、果粉溶脱を生じるおそれがある。

クワゴマダラヒトリ



クワゴマダラヒトリの幼虫※

特徴

- ◆成虫は年1回、8～9月にアカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵する。
- ◆主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で越冬する。越冬後、3月以降に幼虫が移動しブドウの新梢や葉を食害する。

防除のポイント

- ◆初期に新梢の生長点に加害されると、被害が大きいため初期防除に努める。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、オリオン水和剤40などを散布する。

もも

せん孔細菌病



せん孔細菌病の被害葉

特徴

- ◆降雨、強風によって発生が助長される。
- ◆果実は幼果～未熟果期に感染しやすい。

防除のポイント

- ◆発病葉、発病果実は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆発生が見込まれる時期に、バリダシン液剤5、スターナ水和剤などを散布する。

令和3年3月16日発出の防除情報「せん孔細菌病に注意！」についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujyoyouhou/R0303senkou.pdf>

シンクイムシ類



被害果

特徴

- ◆ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

防除のポイント

- ◆被害果実や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆産卵期から幼虫加害期（5月上旬～7月下旬）にモスピラン顆粒水溶剤、アディオソル乳剤、ダントツ水溶剤、テツパン液剤などを散布する。

バラ科果樹(もも、うめ、すもも等)

クビアカツヤカミキリ



特徴

- ◆成虫は体長2～4cm。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出す。
- ◆フラスが出ている穴の周辺に幼虫がいる可能性が高い。
- ◆若齢幼虫はうどんよりも細い(中華麺状)フラスを出すことがあり、この時期の防除が効果的。



被害枝



ネット被覆(さくら)

防除のポイント

- ◆フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは4mm目合いのものを、高さ2m程度まで2重に口をしっかりと巻く。ネットを樹幹に密着させると成虫がネットを噛み切ることがあるので、樹幹との間に余裕を持たせる。
- ◆ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで撲殺する。
- ◆伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い、成虫が拡散することを防ぐ。
- ◆フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。
- ◆発生地域では、モスピラン顆粒水溶剤など成虫対象の登録薬剤を散布する。

令和3年5月12日の防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」についてもご参照ください。
http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyoyouhou/R0305kubi_aka.pdf

温州みかん

黒点病



被害果

特徴

- ◆梅雨時期など雨が続くと発生が増加する。

防除のポイント

- ◆ジマンダイセン（ペンコゼブ）水和剤、エムダイファー水和剤などを散布する。
 - ◆ジマンダイセン（ペンコゼブ）水和剤、エムダイファー水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。
- 注）かんきつ（みかんを除く）では3剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時に注意する。

ミカンハダニ



被害葉

特徴

- ◆梅雨明け後に発生が多くなる。

防除のポイント

- ◆6月中～下旬に、ハーベストオイル、トモノールSなどのマシン油剤を散布する。
- ◆発生を認めたら、ダニエモンフロアブル、コロマイト水和剤などを散布する。
- ◆薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

カイガラムシ類



ナシマルカイガラムシの被害

特徴

- ◆ナシマルカイガラムシ（サンホーゼカイガラムシ）などが加害する。

防除のポイント

- ◆幼虫発生期にアプロードフロアブル（幼虫のみ）、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤、コルト顆粒水和剤などを散布する。

いちじく

アザミウマ類



被害果*

特徴

- ◆果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。

防除のポイント

- ◆スピノエース顆粒水和剤、モスピラン顆粒水溶剤などを散布する。
- ◆ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。
- ◆光反射シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

果樹類全般

※作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ※

特徴

- ◆チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆園全体を目合4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆発生を認めたら、アディオソニル乳剤（かんきつ、もも、かきなど）、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（かんきつ、もも、かきなど）を散布する。

野菜

なす

すすかび病



葉の病斑

特徴

- ◆高温多湿になる施設栽培で発生が多い。

防除のポイント

- ◆高温多湿になる施設栽培で発生が多いため、適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆発生を認めたら、スコア顆粒水和剤、パレード20フロアブルなどを散布する。

うどんこ病



葉の病斑

特徴

- ◆窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤、プロパティフロアブル、スコア顆粒水和剤などを散布する。

灰色かび病



灰色かび病症状*

特徴

- ◆咲き終わった花卉や幼果に感染しやすい。
- ◆20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。

防除のポイント

- ◆適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤等を、発生を認めたら、パレード20フロアブル、ゲッター水和剤などを散布する。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

防除のポイント

- ◆発生が見られたら、ディアナSC、アフーム乳剤、モベントフロアブル、ファインセーフフロアブルなどを散布する。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

野菜

トマト・ミニトマト(施設栽培)

すすかび病



被害葉※
表(左) 裏(右)※

特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。

灰色かび病



被害葉

被害果

特徴

- ◆20℃くらいの多湿時に発生が多い。花がらや果実のがくから発生し、果実に被害が発生する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ロブラール水和剤やアフエットフロアブルなどを散布する。

コナジラミ類



タバココナジラミ ※

トマト黄化葉巻病発症株

特徴

- ◆吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

防除のポイント

- ◆トマト黄化葉巻病は感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、媒介するコナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除去を徹底する。
- ◆グレーシア乳剤、ベネビアODなどを散布する。

野菜類・花き類

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

シロイチモジヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ねぎでの発生が多いが、マメ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、アクセルフロアブル（ねぎなど）、ディアナSC（ねぎ）、プレオフロアブル（ねぎなど）などを散布する。

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

- ◆なす科野菜、さといもなど多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、アディオソ乳剤（さといも、ずいき、オクラ、豆類（未成熟）など）、ディアナSC（かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど）、コテツフロアブル（ずいき、さといも、オクラ、花き類など）、プレバソソフロアブル5（さといも、なす、ピーマン、キャベツなど）などを散布する。

ヨトウムシ類については
「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_Lpdf

コナガ



成虫 ※



幼虫 ※

特徴

- ◆主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆発生を認めたら、アクセルフロアブル（非結球あぶらな科葉菜類など）、ディアナSC（非結球あぶらな科葉菜類など）などを散布する。

野菜類・花き類

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、**モスピラン顆粒水溶剤**（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎくなど）、**アドマイヤー顆粒水和剤**（なす、トマト、ミニトマトなど）、**コルト顆粒水和剤**（なす、トマト、ミニトマト、花き類など）、**ウララDF**（なす、トマト、ミニトマトなど）を散布する。